

前例のない「二重塗装」で実現した モダンでヴィンテージなサクソフォン

厳選した素材と最新の技術、長年培ったノウハウを集めて作られるヤマハのカスタムサクソフォン。そのなかで、ゴールドラッカー、金・銀メッキ、ブラックラッカーなどの幅広い表面仕上げが揃うのが「82Z」シリーズ。管楽器の場合、管体の素材や形状はもちろん、小さなパーツの仕様ひとつで音色や吹奏感が変わってくるが、表面の塗装もこれらを左右する大きな要素となる。

またサクソフォンに限ったことではないが、ジャズプレイヤーのなかにはヴィンテージ楽器を好む奏者もいる。製造から時間がたったヴィンテージならではの質感は魅力的だが、メンテナンスが大変だったり、音のコントロールが難しかったり、そもそも楽器の数が少なく手に入れない。そこで「82Z」をベースに、ヴィンテージの趣を持たせた新たな仕上げのモデルを開発。2023年秋、アンバーラッカー仕上げのアルトサクソフォン「YAS-82ZA」とテナーサクソフォン「YTS-82ZA」が発売された。「『82Z』シリーズは、それまでヴィンテージを愛用していた多くのジャズプレイヤーから支持を得てきた歴史があります。ただジャズ向けの楽器というわけではなく、新しいアンバーラッカー仕上げも、奏者の皆さんのより幅広い要望に応えるために生まれたものです」と教えてくれたのは、開発を担当する佐野剛昭さん。



(左)開発を担当した藤井駿さん。中学の吹奏楽でサクソフォンに出会って以来、奏者としてもサクソフォンに親しみ、開発業務に生かしている。(右)開発を担当した佐野剛昭さん。ユーフォニアムの開発、品質管理などを経て現職に。今回の開発では、主に量産体制を整える業務に携わる。

最新の塗装技術で ヴィンテージ感を表現する

開発において最初の関門となったのは、「ヴィンテージサクソフォンを思わせる管体の色とはどういうものか?」という問いだ。

「一般的にヴィンテージサクソフォンと呼ばれるものは、長年の使用により塗装が剥がれてアンラッカーの状態になったものが多いです。ですが今回の開発では、ヴィンテージの再現ではなく、ヴィンテージの味わいと現代的な華やかさが同居する“モダンなヴィンテージ”という新しい価値観を生み出したいと思いました。世の中でヴィンテージと表されるあらゆる商品の色を調査し、数えきれないほどの試作品を作りましたが、“アンバー”という名称も含めて、結論を出すまでには多くの議論と試行錯誤がありました」。そう語るのは、開発

を担当した藤井駿さん。

重要なのは、アンバーラッカーという色だけではない。ラッカーをかけたあとに彫刻を施す“後彫り”と、その上にトップコートをかけて保護する“二重塗装”もポイントとなっている。(詳細は右ページを参照)

「サクソフォンは、奏者がどんな演奏をするかと同じくらい楽器の“見た目”にも注目が集まります。特にステージ上では多くの観客の視線を浴びるため、サクソフォンの顔でもあるベルの彫刻がより際立つ後彫りを採用しました。ただし、アンバーラッカーはごく薄い塗装になっており、彫った箇所は下地の真鍮が露出してさびやすくなるため、トップコートをかけて保護することにしました。すると錆びを防げるだけでなく、音にも良い変化が生まれ、まとまりのある落ち着いた音色になることがわかりました」(藤井さん)

ラッカーと真鍮のコントラストが美しい「後彫り」

現代的でありながら、ヴィンテージの風合いも感じさせるアンバーラッカー仕上げ。アンバーラッカーで塗装したあとに「カスタムZ」のロゴをレーザーで、また、花びらを職人の手作業で“後彫り”することで、筐体の真鍮の色を露出させる。ステージでライトを浴びたとき、彫刻がより立体的に浮き出て見える効果がある。



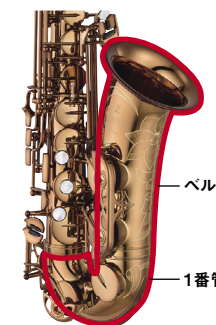
彫刻のあとに ラッカーをかけた場合

右の写真は、サクソフォンで最も一般的なゴールドラッカー仕上げ(写真の楽器は「YAS-82Z」)。彫刻してからラッカーをかけるため、アンバーラッカー仕上げに比べると彫刻の主張は少ない。



ベルから1番管にかけての 二重塗装

ラッカーとトップコートの二重塗装になっているのは、音の出口であるベルと、ベルにつながる1番管(U字管)。音の出口に近い管体の重量がやや増すことで、はっきりとした輪郭がありながら、落ち着いた深みのある音が鳴るようになった。



カスタムサクソフォン「82Z」とは?

ジャズ・サクソフォン奏者であるフィル・ウッズ氏の協力を得て、2002年にアルトサクソフォンとテナーサクソフォンを発売(第1世代)。2013年にリニューアルを実施(第2世代)。ベルの製造法とネックの変更、メタルレゾネーター(キーパッド中央部の反射板が金属製)の採用により反応の良さや表現力の幅が向上。2022年に20周年を迎え、現在ソプラノ、アルト、テナーを揃える。